

第1回日本周産期・新生児医学会 周産期（新生児）専門医試験講評

第1回日本周産期・新生児医学会 周産期（新生児）専門医試験は、平成19年10月20日（土）、21日（日）の2日間にわたって、日本教育会館一ツ橋ホールにて行われた。受験予定者は78名で欠席者はいなかった。

第1日は、午後2時から90分間の筆答試験(90題110問)、午後3時50分から30分間の小論文試験が実施された。小論文は予め学会ホームページで5つのテーマが公表されていたが、当日はそこから「NICU内での医療事故を減らすには？(800字以内)」が小論文試験に出題された。小論文試験終了後、面接官2名が一組となり、面接のための準備として担当する受験者の症例報告書から2症例を抽出するとともに、小論文の評価も行った。

2日目は午前9時から受験者1人当たり15分間(10分間の面接、受験者退室後5分間の面接官による評価)の面接試験が実施された。午前11時15分には受験者全員の面接が終了した。

後日専門医認定委員会、理事会を開催し76名の専門医の認定を行った。なお、筆答試験の合格基準は60%以上の正答率とした。

平成19年5月の段階で専門医の研修開始後3年以上経過した研修医は約160名であったが、第1回周産期（新生児）専門医試験の受験希望者は91名であった。したがって、最終的な合格率は83.5%（76/91）となった。

また、今回の専門医試験の受験者に対して実施したアンケートの結果は次の通りであった。

- 筆答試験に関する難易度を5段階で判定してもらったところ、約80%の受験者が難易度4/5以上という評価であった。とくに多かったのは、問題数が多く解答時間が少ないという意見であった。また、小児外科の問題数が相対的に多い、問題の内容が重複しているものがあった、などが寄せられた。
- 小論文についても難易度を5段階で判定してもらったところ、筆答試験とは異なり約75%の受験者が難易度3/5以下という評価であった。しかし、論文の字数が少ない、時間が短いという意見も寄せられた。

日本周産期・新生児医学会専門医制度委員会